スポーツニッポンFresh!信州　２０１５年１１月１６日掲載

Fresh!信州

都市大塩尻 女子 逆転V5

2時間5分フルセット熱戦粘り勝ち

男女の決勝が行われた。女子の東京都市大塩尻は長野日大にセットカウント1―2と追い込まれながら第4、5セットを連取する逆転勝ちで5年連続5度目の頂点に立った。男子は創造学園が高速コンビバレーで岡谷工を3―0のストレートで圧倒し、3年連続5度目の優勝。男女とも1位は県代表として来年1月5日から東京体育館で開催される全国大会に出場する。

バレーボール全日本高校選手権県代表決定戦（15日　長野市ホワイトリング）

＜東京都市大塩尻・長野日大＞5連覇に満面の笑みを浮かべる東京都市大塩尻チーム最多29得点を挙げた中島

▽女子決勝

東京都市大塩尻	3	15	25	24	23	25	15
長野日大	2	8	22	26	25	12	8

中島29得点

王手かけられても心は折れず

前回初戦敗退の春高で雪辱を

女王の底力だ。第1セットを先取しながらサーブに手を焼き第2、3セットを落としても心は折れなかった。

落とせばV5の夢が消える第4セット。18―18から山川真央のブロック―8で2時間5分の大熱戦に決着をつけた。岡田隆安監督(66)は「必ずやってくれると信じてました。勝つと喜びが倍増する」と称えた。

主将の加藤菜々子は「5セットやるつもりで最後まで諦めずにやろう。1点取ってもすぐ切り替えて次のプレーを考えた」と明かした。チームで共有していた思いで、1カ月前から指揮官が採り入れたメンタルトレーニングの成果の一端だ。インターハイは8強入りも国体出場を逃すなど、もろさがあったことでセルフコントロールの重要性を痛感。指南書を全部員で音読させるなど、タフなハートを培ってきた。

レフトの中島は「自分にいい聞かせる強気な言葉」として脳に「決まる」と記して臨み、スパイクで29得点を稼いだ。

さあ、年明けの大舞台が待っている。前々回は3位も、前回は初戦敗退。加藤は、「去年は悔しい思いをした。必ず日本一を奪る」と決意を込めていた。

（高地　浩志）

東京都市大塩尻	学年	打数	アタック	ブロック	サーブ
山川	①	33	16	9	0
塩内	③	15	9	1	1
小林	③	6	0	1	1
中島	③	65	29	13	2
加藤	③	27	14	1	1
小山	②	23	12	0	0
吉田	①	1	0	0	0
佐藤	①	0	0	0	0
吉沢	①	0	0	0	0
中村	❶	0	0	0	0
合計		170	79	8	4

長野日大	学年	打数	アタック	ブロック	サーブ
早野	③	2	2	0	2
水沢	②	52	14	4	0
飯村	②	0	0	0	2
柳沢	①	74	25	4	3
小山	③	31	12	0	0
星池	③	0	0	0	0
黒岩	①	0	0	0	0
小林	❶	0	0	0	0
今福	❸	0	0	0	0
合計		166	51	13	8

※学年の●数字はリベロ

■この記事・写真等はスポーツニッポン新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。
学校法人 五島育英会